

## がん患者のためのチーム医療体制構築を目指して

(福岡県) 総合メディカル株式会社 そうごう薬局石丸店

藤崎 さゆり、栗林 洋佑 他

### 【目的】

近年、がん化学療法は入院による治療から通院外来による治療へと移行しており、保険薬局も経口抗がん剤や支持療法薬などの処方に応需する機会が増えてきている。その一方で保険薬剤師はがん治療に関する知識や患者情報が不十分なため、患者ケアを積極的に行えない現状があった。そこで今回、我々はがん患者に特化した応需先病院との情報交換・共有方法を構築することで、統一したケアの実施・充実に努めるべく、保険薬局を含めたチーム医療のあり方を検討したので報告する。

### 【方法】

《病院との取り組み》

- ①がん化学療法担当者を病院と薬局に設置し、②がん化学療法合同カンファレンスを定期的  
に実施
- ③お薬手帳を活用した情報共有の実施

《薬局内での取り組み》

- ①症例検討会の実施
- ②がん化学療法問い合わせファイルの作成
- ③がん化学療法連携マニュアルの作成

### 【結果】

- ・定期的なカンファレンスの実施により、副作用対策や説明内容など、病院と統一したケアが可能となった。
- ・がん化学療法の内容・スケジュールを把握できたことにより副作用の重症化を防ぐための、より詳しい指導や副作用モニタリングができるようになった。
- ・「相互作用」等の患者モニタリング情報をフィードバックすることで、病院薬剤師を含めた医療機関との情報共有が行なえた。
- ・症例検討会や知識習得が個々の患者に対応したケアにつながった。
- ・症例検討会の実施、「問い合わせファイル」「がん化学療法連携マニュアル」の作成により、がん化学療法担当者以外の薬剤師も、情報共有することができた。

### 【考察】

今回、応需先医療機関と連携し、情報交換・共有を行うことで保険薬局でのがん患者のケアの質が向上した。また、医療機関と保険薬局がチーム医療体制を構築し、がん治療に関わっていくことは、患者ケアのために必要不可欠であることが示された。

医薬品の適正使用の担保、薬物治療の成功、ひいては患者QOLの向上につなげていくためにも、この取り組みの継続は必要であると考えます。

【キーワード】 チーム医療、がん化学療法